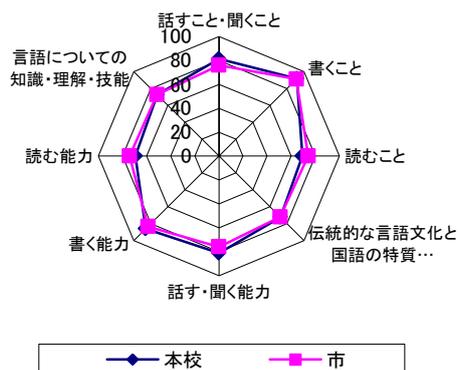


# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	81.2	75.9	72.1
	書くこと	91.5	91.0	79.2
	読むこと	69.2	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	81.2	75.9	72.1
	書く能力	86.0	83.3	72.2
	読む能力	69.2	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	72.5	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

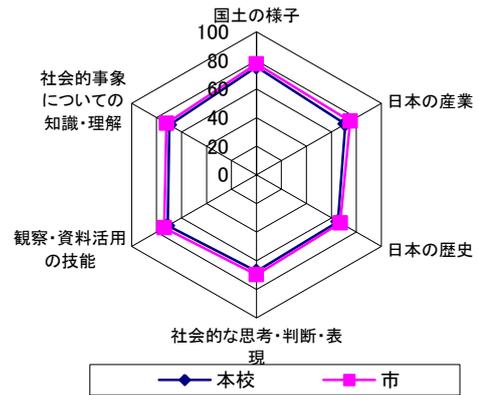
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率を5ポイント以上、上回った。</p> <p>○「話し合いのテーマに合った発言をするよう、発表者に指摘するつもりで、適切な言葉遣いで書く」という設問の正答率が高かった。</p> <p>●「司会者の役割を理解して、立場や意図を明確にして話し合う」という設問の正答率がやや低かった。</p>	<p>・話し合いの学習を行う際、これまで通り話し手の意図や工夫を考えながら聞くことができるようにする。そして、役割を固定することなく、話し手や聞き手、司会者など、それぞれの立場にたって話したり聞いたりすることができるようにしていく。</p>
書くこと	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率を0.5ポイント上回った。</p> <p>○「指定された長さで文章を書く」「自分の意見とその理由を明確にして書く」という設問の正答率が高かった。</p> <p>●「2段落構成で文章を書く」という設問の正答率がやや下回った。</p>	<p>・段落構成を意識しながら、指定された文字数で書く学習の機会を増やしていく。国語の学習だけでなく、他の教科においても文章を書く機会を設け、作文力が高まるようにする。</p>
読むこと	<p>●本校の平均正答率は、市の平均正答率を4.9ポイント下回った。</p> <p>●「物語の内容を読み取る」については、市の平均正答率を3.3ポイント下回った。</p> <p>●「説明文の内容を読み取る」については、市の平均正答率を7.8ポイント下回った。</p> <p>●「資料とパンフレットを読み取る」については、3.7ポイント下回った。</p>	<p>・「物語」については、登場人物や中心人物についての描写に着目しながら、教材文を読み取っていくように指導していく。</p> <p>・「説明文」については、段落相互の関係を的確に押さえながら読んだり、要点を確認しながら読んだりすることができるよう、接続詞や指示語などに注意しながら読み取るよう指導していく。</p> <p>・「資料」については、パンフレットや資料の文章構成を確認しながら、内容の読み取りができるように指導していく。</p> <p>・様々な分野の図書に触れることができるよう、読書を奨励していく。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○本校の平均正答率は、市の平均正答率を0.1ポイント上回った。</p> <p>○「漢字を読む」については、市の平均正答率を3.1ポイント上回った。</p> <p>●「漢字を書く」については、市の平均正答率を1ポイント下回った。</p> <p>●「言葉の学習」については、市の平均正答率を2.3ポイント下回った。</p>	<p>・漢字の読み書きについては、ドリル等で繰り返し学習を行い、小テストや宿題などで定着を図っていく。</p> <p>・国語辞典の活用を図り、言葉に関心を持てるように指導していく。</p>

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.5	77.6	77.6
	日本の産業	71.1	75.1	67.5
	日本の歴史	65.4	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.4	69.7	64.7
	観察・資料活用 の技能	71.1	73.8	68.5
	社会的な事象 についての知識・理解	69.7	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

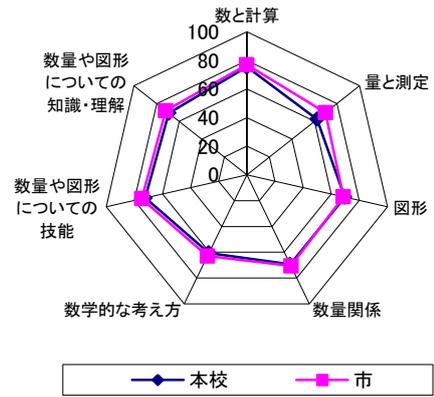
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を2.1ポイント下回った。特に、日本の国土や位置についての設問の正答率が低かった。	・日常的に地図帳を活用し、学習に出てくる国や地域を地図帳で確認することを継続して行っていく。また、日本の細かな地形や位置について名称を覚えさせる。
日本の産業	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を4ポイント下回った。 ●日本の食料生産については、市の平均正答率を2.4ポイント下回った。 ●日本の工業生産については、市の平均正答率を5.2ポイント下回った。	・日本の食料問題や工業生産に関する時事的な話題を取り上げたり、映像資料や資料集を活用するなどして、児童の関心を高める。 ・資料やデータの読み取りを丁寧に行い、気が付いたことを友だちと共有する機会を設け、関連性や特徴を読み取る力を育てる。
日本の歴史	●本校の平均正答率は、市の平均正答率を1.8ポイント下回った。 ○明治時代～平成時代については、市の平均正答率を4.5ポイント上回った。 ●縄文時代～江戸時代については、市の平均正答率を下回った。	・各時代の代表的な出来事や偉人について、単に暗記をするのではなく、出来事同士の関連や時代背景などについて、総合的に考えられる力を育てていく。

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.4	77.0	70.4
	量と測定	62.4	69.8	68.5
	図形	69.6	68.6	72.4
	数量関係	69.4	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	60.6	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	72.3	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	69.2	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。  
 (算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

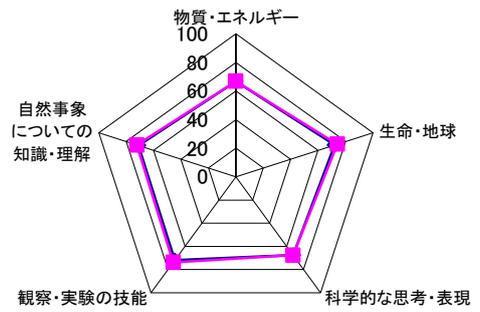
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は75.4%と市の平均正答率77.0%を下回った。</li> <li>○分数の計算問題では、分数、小数、整数の乗除混合計算が市の平均を上回っている。</li> <li>●図をつかって、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題は、市の平均を10ポイント程下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎力を身に付けるために、朝のぐんぐんタイムに10分計算を行ってきたが、さらにドリル等を活用して効果的な指導を工夫していく。</li> </ul>
量と測定	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は62.4%で市の平均正答率69.8%を下回っている。</li> <li>●ひし形の面積を求める式は定着しておらず、市の平均を15ポイント近く下回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に定着が不確かだった、「面積」「体積」についての復習に重点を置いて指導し、定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は68.6%で、市の平均を上回っている。</li> <li>●円の半径から円周を求める式の理解は、市の平均を上回ってはいるが、正答率は38.1%と低い。</li> <li>○合同な三角形の作図については、95.2%と正答率は市の平均を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多角形や円の定義を復習し、作図、面積、体積の練習問題で適応の仕方を確認しながら定着を図っていく。</li> </ul>
数量関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は、69.4%で市の平均正答率の70.6%をわずかに下回った。</li> <li>●文字を使って2つの数量を式に表す問題ができていない。</li> <li>○反比例についての表を読み取り、表にあてはまる数を求める問題は、正答率が市の平均を上回った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字式の作り方から復習し、文字が何を表しているか理解できるようにして練習問題に取り組み、定着を図る。</li> </ul>

# 宇都宮市立御幸小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	66.8	66.8	63.6
	生命・地球	72.1	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	67.7	67.6	65.0
	観察・実験の技能	72.1	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	71.0	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校      ● 市

## ★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>○平均正答率は66.8%と市の平均と同じであった。○「もののとけ方」でろ過した液から食塩を取り出す方法を指摘する問題については、91.7%で市の平均を上回っている。</p> <p>●ふりこのきまりでは、ふりこの周期がふりこの長さに依存することの理解が、市の平均を下回っている。</p>	<p>・ある事象についての課題・予想・実験手順・考察を一つ一つ丁寧に確認する時間をより多く設け、体験的に学べる機会をふやし、技能面の定着を図る。</p>
生命・地球	<p>●平均正答率は72.1%と、市の平均74.0%を下回った。</p> <p>○月の見え方を調べる実験についての理解は、市の平均を上回っている。</p>	<p>・児童の理解がより確かなものとなるよう、指導の際に資料や映像を多く活用していく。また、事象について一つの見方だけでなく、多面的に考え自ら行った予想と結果を推論し、放言する時間を設ける。</p>